

温州みかん サンビオティック施肥・病害虫防除基準(環境保全型)

令和3年3月作成

月	日	作業内容					注意事項		
		肥料・薬剤名	成分名	目的	カウント	使用量		施用方法	
形態的花芽分化	1月	全 防風垣の手入れ、縮伐、枯れ樹の伐採など					できるだけ日当りを確保するよう防風垣を整備する。		
		10	尿素	46-0-0	樹勢回復		500倍	葉面散布	マシン油乳剤を散布する場合は、1月上旬までに散布。(マニュアル12月参照)
			コーソゴールド	0-8-5			500倍		
			マジ鉄	微量要素			5000倍		
		20	尿素	46-0-0	樹勢回復		500倍	葉面散布	
			コーソゴールド	0-8-5			500倍		
マジ鉄	微量要素			5000倍					

花芽充実	2月	全 土壌分析、施肥設計、栽培カレンダー作成					圃場ごとに土壌分析、施肥設計し、カレンダーにする。		
		10	尿素	46-0-0	樹勢回復		500倍	葉面散布	
			コーソゴールド	0-8-5			500倍		
			マジ鉄	微量要素			5000倍		
		20	尿素	46-0-0	樹勢回復		500倍	葉面散布	
			コーソゴールド	0-8-5			500倍		
マジ鉄	微量要素			5000倍					

樹液流動	3月	全 間引き(切り上げ)剪定、枯れ枝の除去					剪定は最小限で間引き主体の弱剪定。(15%以下)		
		全 中耕、排水溝の整備、草刈り(地温上昇)など					草生栽培(ナギナタガヤ)では、目立つ草のみを除去。		
		10	尿素	46-0-0	樹勢回復		500倍	葉面散布	花芽充実し着果率向上のため、コーソゴールドを葉面散布する。
			コーソゴールド	0-8-5			500倍		
			マジ鉄	微量要素			5000倍		
		15	完熟堆肥(C/N=20以上)	1.5-2-1	土壌改良		2トン	樹冠下施用	必ず土壌pHは5.5~6.0に調整する。有機物、く溶性苦土、その他ミネラルの施用。
カキガラ石灰(苦土入り)	Ca40-Mg8			50~100kg					
萌芽期	3月	20	コサイド3000 +クレフノン	水酸化第二銅55.3% 炭酸カルシウム	かいよう病	0	1000倍	葉面散布	かいよう病防除は発芽前に実施し、新葉の感染を防止する。マシン油散布する場合は、かいよう病防除後(14日空ける)、マシン油散布(3月中旬以降)の順に防除実施する。
			尿素	46-0-0	樹勢回復		500倍		
		コーソゴールド	0-8-5			500倍			
		25	有機百倍	9-4-4	春肥		60kg	樹冠下施用	花が多い場合や樹勢が弱い場合は、有機百倍80~100kgとする。堆肥不施用園では、カリ単肥を20kg追加散布する。著しく樹勢が弱い場合は、硝酸カルシウム20kgを追加する。
			鈴成	1-8-2			100kg		
							15kg		
30	菌力アップ	微生物、ホルモン	発根促進		5L	灌水	発根促進のため灌水(1~2トン)する。		
	糖力アップ	5-1-1			5kg				

発芽・展開期	4月	5	デランフロアブル	ジチアノン40%	そうか病	1	1000倍	葉面散布	発芽後すみやかに(3~5mm)散布。葉害が出るので、マシン油散布から20日以上は空けてデランフロアブルを散布する。
			尿素	46-0-0	緑化促進 花芽充実		500倍		
			コーソゴールド	0-8-5			500倍		
			マジ鉄	微量要素		5000倍			
		10	菌力アップ	微生物、ホルモン	発根促進		5L	灌水	発根促進のため、たっぷりと灌水(1~2トン)する。
			糖力アップ	5-2-1			5kg		
20	菌力アップ	微生物、ホルモン	発根促進		5L	灌水	発根促進のため、たっぷりと灌水(1~2トン)する。		
	糖力アップ	5-2-1			5kg				
30	枯れ枝や発病葉の剪除。園内の清掃(病気の温床となるものを残さない)表年のベタ花は、摘蕾作業。開花1週間前(蕾が縦長になるころ)					(表年)極早生・早生の直花は、直径1cm程度の立ち気味の側枝単位で、摘蕾する。晩生は、有葉花を中心に摘蕾。摘蕾後の新芽に、アブラムシが着きやすいので注意する。			

開花期	5月	1	菌力アップ	微生物、ホルモン	発根促進		5L	灌水	5月は土壌を乾燥させないこと。乾燥時は、液肥混和して3~5トンたっぷり灌水。
			糖力アップ	5-2-1			5kg		
		5	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド20%	ハナムグリ、ハモグリ、スリップス	1	4000倍	葉面散布	ミツバチやカブリダニ(天敵)に影響の少ない農薬選定をする。エクシレルSEも幅広い薬効あり。スピノエースフロアブル(カウント0)、マッチ乳剤でも良い。樹勢回復が遅れている場合は、尿素500倍を混用。
			コーソゴールド	0-8-5	生理落果防止		500倍		
			マジ鉄	微量要素			5000倍		
		10	フロンサイド水和剤、またはエコショット	フルアジナム50% 微生物	灰色かび病	1	1000倍	葉面散布	エコショットは農薬にカウントなし。開花初期に1回、満開~落弁期に1回の2回散布する。重層500倍でも代用できる。そうか病多発園では、ストロビードライフロアブル(満開期~落弁期)2000倍を散布する。
コーソゴールド	0-8-5			500倍					
一次生理落果・細胞分裂最盛期	5月	15	菌力アップ	微生物、ホルモン	発根促進		5L	灌水	5月は土壌を乾燥させないこと。乾燥時は、液肥混和して3~5トンたっぷり灌水。
			糖力アップ	5-2-1			5kg		
		20	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ75%	黒点病	1	600倍	葉面散布	必ず降水量計を設置し計測する。降雨250mmで、残効がなくなるので再度散布する。減農薬では、フーモンに代えて、展着剤として97%マシン油乳剤を1000倍希釈で使用。カイガラムシ多発園では、アブロード水和剤を混用する。ハモグリガの防除は、ノーマルト乳剤。残効性が長く天敵への影響が少ない。
			フーモン	ポリグリセリン脂肪酸エステル	ハダニ	1	1000倍		
			コーソゴールド	0-8-5	生理落果防止		500倍		
		本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15			2000倍			
25	極早生、早生、中生の間引き剪定 枯れ枝や発病葉の剪除。園内の落果などの清掃(病気の温床となるものを残さない)					弱剪定を基本とし、できるだけ太い枝を切らないこと。細くやわらかい枝をたくさん出させるように行う。			
30	菌力アップ	微生物、ホルモン	発根促進 生理落果防止		5L	灌水	発根促進のため、たっぷりと灌水(1~2トン)する。		
	糖力アップ	5-2-1			5kg				

二次生理落果	6月	1	エムダイファー水和剤 または コサイド3000(クレフノン200倍、またはホワイトコート50倍加用)	マンネブ75% 無機銅	黒点病	1	600倍	葉面散布	減農薬ではICボルドーを使用する。(ハーベストオイルとは2週間空ける。)慣行栽培では、デランフロアブルでも良い。前回散布から降雨250mmで再度散布する。降雨が少ない場合は省略する。	
			スピノエースフロアブル	スピノサド20%		ハモグリガ、スリップス	0			4000倍
			コーソゴールド	0-8-5		生理落果防止				500倍
			本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15						2000倍
		5	有機百倍	9-4-4	夏肥		40-100kg	樹冠下施用	施用量は、マニュアル6月を参照	
			鈴成	1-8-2			100kg			
10	中生・晩生・中晩柑の夏剪定。枯れ枝の剪除・焼却					薬剤摘果の場合は、タームを使用。暖かい日に滴り落ちない程度にたっぷりむらなく。樹冠上部を中心に、下部は薄く散布する。中生・晩生の剪定。				
	ハーベストオイル	マシン油97%	ハダニ等	0	400倍		薬害を避けるためハーベストオイルは、高温乾燥時の散布、夕方の散布を避ける。ジマンダイセンを、コサイド3000+クレフノン			
	ジマンダイセン水和剤	マンネブ75%	黒点病	1	600倍					

液胞発達期	20	レターデン水和剤	ジフルベンズロン	スリップス、ハダニ サビダニ、ハモグリ	1	2000倍	葉面散布	に代替可能。 スプラサイド乳剤は、劇物(人体に害あり)で天敵への影響も強いので、レターデン水和剤を選択。残効性が長く、ハダニ・サビダニを抑え、天敵への影響が少ない。カネマイトフロアブルや、コロマイト水和剤(カウント0)も良い。6~9月はカミキリムシに常時注意する。減農薬でのカミキリムシ防除にはバイオリサ・カミキリを使用する。			
		トランスフォームフロアブル	スルホキサフロル9.5%	カイガラムシ、カミキリ成虫	1	2000倍					
		コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		500倍					
		本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍						
液胞発達期	30	菌力アップ	微生物、ホルモン	発根促進		5L	灌水	発根促進、肥料吸収と同化作用を高める目的で行う。			
		糖力アップ	5-2-1		5kg						
果実肥大期	5	デランフロアブル または コサイド3000(クレフノン200倍、またはホワイトコート50倍加用)	ジチアノン40%	黒点病	1	1000倍	葉面散布	エムダイファー2回(収穫60日前)まで。デランフロアブルでの代替も可能。			
			水酸化第二銅46%		0	2000倍					
	7月	20	イオウフロアブル	硫黄52.0%	サビダニ	0	400倍	葉面散布	サンマイト水和剤は、天敵に影響するので、環境保全型ではイオウフロアブルを推奨する。 ハダニ多発園ではコロマイト水和剤(2000倍)を散布。 エカキムシ多発時または、苗木には、マッチ乳剤またはノーマルト乳剤。 長梅雨の場合は、硫酸Mg、硫酸加里の施用を検討する。		
			コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾナ20%	アザミウマ	1	3000倍				
			ジマンダイセン水和剤	マンネブ75%	黒点病	1	600倍				
			アビオンE	パラフィン	展着剤	0	1000倍				
		コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		800倍					
		本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍						
		25	菌力アップ	微生物、ホルモン	糖度向上		5L			灌水	発根促進、肥料吸収と同化作用を高める目的で行う。
			糖力アップ	5-2-1		5kg					

果実肥大期	8月	1	全圃場の糖度、酸度分析、土壌分析 マルチ資材の準備、草刈り(ナギナタガヤ以外) 枝吊り 極早生(岩崎、大地一号、由良)の粗摘果				8/1特撰基準 糖度8.5 酸度4.5 果径40mm				
			1	コサイド3000	水酸化第二銅55.3%	黒点、カイロウ他	0	2000倍	葉面散布	台風襲来前には、散布する。クレント、クレフノンによる日焼け防止、浮き皮防止もあり。クレントは、クレフノンの改良新剤で、汚れが少ない。ホワイトコートは、日焼け、スリップス防止。 木酢液混合不可。雨が少なく、台風がない場合は、省略可。	
				クレフノン、クレント、(またはホワイトコート)	炭酸カルシウム	浮き皮防止	0	100倍(50倍)			
			15	コテツフロアブル	クロルフェナヒル10%	黒点病	アザミウマ	1	400倍	葉面散布	ジマンダイセン4回まで。 コサイド3000+ホワイトコートは、ジマンダイセンとほとんど防除効果は同じ。クレフノンやクレントより防除効果が高い。 ただし、やはり白く汚れるため、早取りの品種では注意。
				ジマンダイセン水和剤、または コサイド3000(クレント100倍、またはホワイトコート50倍加用)	マンゼブ75%		1	600倍			
				アビオンE	パラフィン	展着剤	0	1000倍			
コースゴールド	0-8-5	果実品質向上			800倍						
本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍								
20	早生・中生・晩生の粗摘果(全摘果の20%まで) 枯れ枝の剪除 マルチ被覆(液胞発達期のストレスが糖度向上の効果が高いが、隔年結果を助長するので遅らせる。)				日焼け防止のため、土壌がカラカラに乾燥している場合は、2~3トン灌水後に被覆する。(白黒マルチ) 中晩柑は、夏肥施用(マニュアル6月参照)						

果実肥大最盛期	9月	1	ダニエモンフロアブル	スピロジクロフェン30%	ハダニ	1	4000倍	葉面散布	8月下旬~9月上旬に散布。雨が多い場合は、黒点病防除も。ジマンダイセン4回以降は、ナティーボフロアブル(収穫前日まで)、またはストロビードライフロアブル(収穫14日前まで)で対応。 肥大が悪い場合は、糖力アップを灌水する。			
			Mr.ジョーカー水和剤、または テルスターフロアブル	シラフルオフェン20% ビフェントリン7.2%	カメムシ	1	2000倍 3000倍					
			コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		800倍					
			本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍						
			15	コースゴールド	0-8-5	果実品質向上				800倍	葉面散布	着色促進には、海王5000倍、マジ鉄5000倍を加用する。
				本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍					
着色開始	20	コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		500倍	葉面散布	着色促進には、海王5000倍、マジ鉄5000倍を加用する。				
		本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍							

糖転送・生理的花芽分化後期	10月	1	ベフラン液剤25	イミノクタジン酢酸塩25%	腐敗防止	1	2000倍	葉面散布	腐敗防止のため、収穫前に散布する。減農薬の場合は、重曹500~1000倍で散布。また病害菌の蔓延を防ぐため、落下した摘果、腐敗果を圃地に残さず、持ちだすようにします。 晩生、中晩柑が基準値より酸高の場合は、海王に代えて、特濃糖力アップ500倍を使用する。
			ベンレート水和剤、または トップジンM水和剤	ベノミル50% チオファネートメチル70%		1	4000倍 1000倍		
			コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		500倍		
			本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍			
			海王	海藻粉末	5000倍				
			20	コースゴールド	0-8-5	果実品質向上			
		本気Ca(マジカル)		Ca8.95 B1.15	2000倍				
		マジ鉄	微量元素	5000倍					
		20	有機百倍	9-4-2	秋肥		40~80kg	樹冠下スポット施用	地温12℃(11月下旬)までが、肥料吸収が可能なので、地温15℃程度になる10月20日~11月上旬ごろ施用する。
			コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		500倍	葉面散布	収穫後の圃場では、糖力アップ、発酵エキスの灌水を行う。 晩生、中晩柑が基準値より酸高の場合は、海王に代えて、特濃糖力アップ500倍を使用する。
本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15	2000倍							
海王	海藻粉末	5000倍							

根の伸長後期	11月	10	コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		500倍	葉面散布	作業上、可能な限り行う。 収穫後の圃場では、糖力アップ、発酵エキスの灌水を行う。
			本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍			
			マジ鉄	微量元素		5000倍			
		20	コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		500倍	葉面散布	作業上、可能な限り行う。 収穫後の圃場では、糖力アップ、発酵エキスの灌水を行う。
			本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍			
			海王	海藻粉末		5000倍			
30	コースゴールド	0-8-5	果実品質向上		500倍	葉面散布	作業上、可能な限り行う。 収穫後の圃場では、糖力アップ、発酵エキスの灌水を行う。		
	本気Ca(マジカル)	Ca8.95 B1.15		2000倍					
マジ鉄	微量元素	5000倍							

樹勢回復	12月	10	尿素				500倍	葉面散布	収穫後の樹勢回復
			特濃糖力アップ			500倍			
			コースゴールド			500倍			
		20	マシン油乳剤、または ハーベストオイル	マシン油95% マシン油97%	ハダニ カイガラムシ	0	30~150倍 60~80倍	葉面散布	ハダニのみ防除は120~150倍でよい。 2年おきには、カイガラムシ防除のため30~40倍で散布します。 1月10日までに防除実施し、遅れた場合は3月中旬以降にします。 雨の翌日、暖かい日に散布するのがベストです。
			尿素	46-0-0		500倍			
			コースゴールド			500倍			

※あくまでもこの基準は計画であり、天災や害虫の異常発生など大きな被害が出そうな場合この限りではありません。

※農薬を例示していますが、その選択、効果、混用、薬害等については、ご自身の責任で判断してください。

<ポイント>

・この栽培暦は、高糖度連年結果のための設計です。詳しくは、サンビオテック みかん栽培マニュアルをご参照ください。

・農薬については、天敵や人体への影響が少ない環境保全型の農薬を選定しています。